

ヒロメ販売市場拡大事業

自治体情報 和歌山県田辺市
人口 / 81,191人 標準財政規模 / 24,601百万円

担当課 産業部 水産課
電話番号 直通 0739-26-9932
実施主体 和歌山南漁業協同組合
関連ホームページ <http://wakayamaminami.com/>
<http://www.city.tanabe.lg.jp/sangyo/sanpin/suisan.html>
事業期間 平成21年度から平成24年度まで
関係施策分類 ③

予算関連データ

総事業費：14,465千円

名称	所管	金額(千円)
新農林水産業戦略プロジェクト推進事業費補助金	和歌山県	5,819
一般財源(市補助金)	-	4,017
漁業協同組合		4,629

施策のポイント

地元消費がメインであったヒロメを、認知度をアップさせるため、県外の各種商談会への出展や大手スーパー内での試食販売等を、漁業者・漁業協同組合・行政が一体となって取り組み、ヒロメ価格の安定化を図っている。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

ヒロメは、田辺湾に自生している全国的にも希少な海藻であり、昭和60年代に栽培技術も確立され、冬場の漁業者の閑漁期の副収入として期待されたが、地元消費がメインであったことから、生産過剰となり、価格も低迷する状況となっていた。この状況を打破するために、その名称を「紀州ひろめ」とし、独特の食感と低カロリー、食物繊維の多さなどのヘルシーさをアピールして、県外に販路を求め、ヒロメ価格の安定を図ることとなった。

2. 取組の具体的内容

集出荷場の整備
販売促進、PR用パンフレット等の作成
栄養成分検査、一般細菌類増殖検査
冷凍品及び加工品の開発
大手スーパーでの試食販売及びスーパーマーケットトレドショー等の各種商談会への出展

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

平成20年 収穫量14,519kg



平成23年 収穫量30,000kg
平均単価は、平成20年に対し、平成23年は2倍とする。

4. 現在までの実績・成果

平成21年 収穫量13,704kg 平均単価 約1.4倍(対20年比)

平成22年 収穫量18,425kg 平均単価 約1.4倍(対20年比)

目標に対して収穫量は、高水温の影響等で伸び率は少ないが、単価については、収穫量が増加しても安定している状態である。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

ヒロメは、やわらかくとろみがあり、また、シャキシャキとした独特の食感、歯ごたえがあり、食べるとワカメとは全く違うものであるということが分かるが、商品として陳列しているだけでは、その特徴が分からないものであった。そのため、販売促進には、その場で生のものを湯煎して、試食してもらうこととした。

6. 今後の課題と展開

今までは、京阪神地域を中心として、一部関東方面での取引はあるが、今後、その取引先をさらに広げていきたいと考えている。また、季節限定ということで取り組みを進めてきたが、これからは、周年、消費者に提供できるように努める必要があることから、真空パック冷凍により、周年出荷を目指す。このためには、更に多くのヒロメが必要となることから、ヒロメ栽培(養殖)に力を入れる必要がある。しかし、ヒロメの栽培には、藻食性魚類により新芽を食べられるという食害が多く発生している。これは、12月の水温低下により、本来、藻食性魚類の活動が鈍るものであるが、近年は、水温低下が鈍化しており、藻食性魚類が活発に行動しているためである。こうしたことから、和歌山県水産試験場においては、藻食性魚類対策として、音刺激や超音波を活用した装置を開発中である。

また、集出荷施設においては、衛生面を考慮して、殺菌海水を使用して、1枚1枚手洗いで汚れ等を落とすが、更に効率的に洗浄できる工夫が必要となる。